

令和4年度 第2回学校運営協議会議事録

日時 令和4年11月12日

時間 15:45～17:00

(出席者 敬称略)

【委員】

- 飯島 正徳 (東京都市大学知識工学部教授)
 - 内川 隆 (本校同窓会長)
 - 大石 進 (桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部客員教授)
 - 鈴木 秀幸 (青葉区大場町在住)
 - 久保田香織 (本校PTA会長)
 - 竹下 恭子 (横浜市立市ヶ尾中学校長)
 - 横澤 孝泰 (あおば支援学校長)
 - 佐藤 弘之 (本校校長)
- (欠席者)
- 佐藤 やよい (青葉区福祉保健センター子ども家庭支援課学校連携・こども担当課長)
 - 西村 明展 (本校おやじの会)

【事務局】

- 河合 義昭 (本校 副校長)
- 伊藤 育生 (同 教頭)
- 齊通 勇 (同 事務長)
- 大矢 真 (同 学校運営協議会担当)
- 藤井 美帆 (同 学校運営協議会担当)
- 吉宗 和真 (同 学校運営協議会担当)

【本校各グループリーダー】

- 吉居 英明 (本校 生徒会支援グループリーダー)
 - 伊藤 和久 (同 生徒指導グループリーダー)
 - 木村 秀樹 (同 管理運営グループリーダー)
 - 吉行 伸 (同 カリキュラム開発グループリーダー)
- (欠席者)
- 本屋敷隆裕 (本校 キャリア支援グループリーダー)
 - 佐野 英樹 (同 地域連携・広報グループリーダー)

1 委員紹介

2 会長挨拶

3 校長挨拶

4 報告事項 《○委員、●学校》

(1) 部会の報告について

(ア) 学校評価部会の報告 第1回生徒による授業評価について

○資料の通りの集計結果である。概ね良い。部会では授業評価の結果について保護者からの問い合わせがあったかどうか質問したが、無かったとのこと。結果については校長からのフィードバックや授業改善に使用されている。

○総じてよくできている印象である。毎回同じような資料を受け取っているが、問題点や改善点などは全体の中であるのか。

●学校として授業改善に取り組む上で活用する。学校として特徴的に低いものがあれば全体としての見直しが必要だが、本校には無い。結果の個人データもあるので、各自で担当するクラスの状況を把握し、アプローチを変えることに活かす。

○評価項目5が低いのはコロナ禍の影響ではないか。グループワークができなかったりコミュニケーションが取りづらかったりすることが原因と考えられるが、そのような分析はどうなっているのか。

●たしかに評価項目5については、全体的に評価4の割合が低い。カリキュラム開発グループの会議でも話題になった。コロナ禍が始まってからグループワークを県の指示でやらないようになってきているので、その影響が考えられる。それ以前は対話的主体的で深い学びのためにグループワークが進められていて評価4の割合が高めだったと思われる。現在はグループワークを積極的にやるべきかどうかを示せていない。ICT関係で、対話ではない共有方法もできるようになったので、やり方によっては方法もあるため、評価4の割合を上げていけるのではないか。

(イ) 地域協働部会の報告 新たな地域連携等について

○地域との交流は部活中心だが、ボランティア委員の活用も検討してほしい。

○総合的な探究の時間を活用して地域と交流を深めるのはどうか。

●企業のミッションに対して、グループでアイデアを出して最終的にスライドで発表する活動は行っている。

○新型コロナウイルスの感染が拡大した時期から、生徒が様々な人たちとコミュニケーションをとる機会が減ってきていることを懸念している。

●体育祭や文化祭をみていると、外部や先輩とのつながりが薄くなっている印象である。新型コロナウイルスの感染拡大の中で、生徒たちが外に何かを発信したり外に出向いたりする活動は難しくなっているが、この状況下だからこそできることを考えていきたい。

○卒業生を巻き込んだ活動も検討してほしい。

○ダンス部などの限られた部活動だけでなく、他の部活動との連携や、高校生の柔軟な発想を活かした企画などを進めてみたい。

○高校生の発想力は地域や社会に活かせるが、高校生は勉強や部活動などで忙しい。地域と連携する時間をどのようにつくるかが課題である。

○地域との連携を率先してやりたいと思う生徒はどのくらいいるのか。

●調査はしていないが、自ら進んで手を挙げる生徒は少ないかもしれない。外部から何か企画を持ち込まれるなどの働きかけがあれば、連携に向けて動く生徒たちは多いと思う。

○市ケ尾高校の生徒と市ケ尾中学校の生徒は、課題意識を持って自ら取り組む姿勢などが似ている。市ケ尾ユースプロジェクトのような企画も良いのではないか。

(2) 学校からの報告について

●共通テストの申し込みは80%以上の生徒がしている。指定校推薦は大学81名、専門学校1名、公募制推薦は13名の合計95名が希望。GMARCHからの指定校推薦枠が各校数名ずつある他、東京理科大学や横浜市立大学などもある。農大、薬学、看護などの希望者も多く、具体的にやりたいことが決まっている生徒が多い。

●一ヶ月程度の期間を設け、空き時間や放課後等に模擬面接を全職員で実施している。入試へのバックアップ体制を整えている。多くの生徒が自習室を使用したり職員室前の質問スペースを活用したりしている。

●3年生の修学旅行代替行事が6月に実施された。

●2年生の修学旅行が9月に実施された。新型コロナウイルス等で滞るなどのトラブルもなかった。平和学習や、2日目には広島～大阪間の広域自主行動も行われた。

●文化祭が10月28日(金)、29日(土)の2日間、公開は生徒の家族のみという形で実施された。来場者は1日目363名、2日目1,112名の合計1,475名。新型コロナウイルス感染拡大前は2日間で約6,000名以上の来場者数であった。それには及ばないが、生徒も充実した2日間を過ごせた。

●オープンスクールは本日(11月12日)実施された。午前の授業に900名程度来校、午後は部活動見会も兼ねており、部活動だけ見学に来る人もいたため、合計の来場者数は約1,000名程度になった。

●部活動見学会をオープンスクールの日を含めて5日間設定し、実施している。本日以外で現在121名の参加申し込みがある。

●第2回学校説明会を12月10日に本校体育館で実施予定である。第1回は夏休みに相模女子大グリーンホールで実施した。平日の学校見学会も定期的にも実施しており、多くの方に参加していただいている。

●教育相談ではスクールカウンセラー(SC)が月2回来校しており、今年度の利用者は延べ42件。昨年は13件のためかなり増えているが、継続して相談している生徒や保護者が多いことが理由である。

●部活動については成績の良かったものが資料に掲載されている。その他にも、ダンス部がミュージックデイズ(全国大会)で準グランプリ、野球部が夏の甲子園予選で初シード権獲得、書道部が全国大会の常連等がある。部活動加入率は84%程度で、勉強だけでなく様々なことに全力投球している。

○カウンセリングの件数は、昨年も延べ件数か。

●延べ件数である。実際の人数は変わらないが、頻度が高いため多く見える。

○頻度が高いのは何か理由があるのか。大学でもSCを設置しているが、それによって学生の勉強が阻害されていることもある。アフターコロナで、そういった問題を抱えた生徒に早めの対応をしてほしい。看過できない数字である。

●生徒指導担当者や全県の打合せでも、アフターコロナの影響が全県的に多いと言われていた。積極的にカウンセラーに繋ぐようにしているからであり、急に増えたというよりは早めに対応しているためである。新型コロナウイルス感染拡大前より増えているが、勉強や進路に対する不安を持つ生徒も一定数いるため早めに繋ぐようにしている。

○以前『総合的な探究の時間』が必修化されるということで各校何をするか悩んでいたが、今は何をしているのか。

●昨年までの3年間探究の研究開発校だったが、発表は全てオンラインで行った。本来は横浜北地区とのポスターセッションを予定していた。今年からは2期目となり、他校からの見学などもあった。3年間をまとめた資料も制作しているのでご覧になってほしい。2学年で取り組んでいる企業からの問題解決についての発表も実施する予定である。

○2年前のテーマとだいぶ変わっている。今は問題解決について扱っているのか。

●本校は問題解決に設定して行っている。学年や時期によっても違い、それぞれにその時合ったものを扱う。1年生は「探究活動とは何か」というところから始めている。

○新カリキュラムの科目名に、それぞれ『探究』と付くものがあるが、いずれ『総合的な探究の時間』が無くなるということか。

●科目名としての『探究』であるため『総合的な探究の時間』とは別の内容であり、『総合的な探究の時間』が無くなるわけではない。

(3) その他 【質疑応答、意見】

○先生方は夏休みが取れたでしょうか。大変だとは思いますが、休息を取り質の良い時間を過ごしてほしい。昔は自宅で仕事をしていたが、今は違うので帰宅時間が遅くなっているのではないか。先生方が壊れないよう管理職には見ていてほしい。

○2割程度が推薦を希望しているが、推薦入試というのはだいたい合格するものなのか。

●総合型選抜では、合格する生徒もいればそうでない生徒もいる。今年度に関してはこの方法で筑波大学の合格者がいる。指定校推薦はまず合格する。

○今年度は進学者が100%なのか。

●昨年度就職希望者はいなかった。今年度も、希望する場合は5月に書類を提出しなければならないが出てこなかったので進学者が100%である。

○修学旅行が2回あって先生方は準備が大変だったのではないか。休日等の部活動の引率もあるようだが、休みは取れているだろうか。

●3学年の修学旅行は、本来2年生の9月に実施予定だったが2年生1月に延期となり、最終的に3年生の6月に代替行事を実施した。1泊短くはなったが実施することができた。準備期間が短いことや、日程が平日の中日で2日間授業もあり、先生も生徒も大変だった。

○子どもには「代替行事でも行けたのだから良いのではないか」と言ったが、本人は「合宿は行けなかった」と言っていた。修学旅行に着ていく服も日程変更の度に購入したが、それでも「完璧ではない」と言っていた。

○コロナ禍でなくとも、行き先が沖縄だと台風で飛行機が飛ばないこともある。変化に応じて楽しむことができるとよい。

○カウンセリングについては、学校に生徒が来ていて、何かあればすぐに相談できる環境があるとよい。相談しようと思っても、何を話したらよいかわからないとカウンセリングにすら来られない生徒もいる。親も大変で、それを見た子供がさらに落ち込んでしまう。深刻化する前にすぐに話ができるとうい。学校外のボランティアも使えるとうい。田奈高校では図書カフェというものがある。授業には出られなくてもそこには来られる、ということもある。

○（鈴木様から内川様へ）創立50周年に同窓会で何かやらないか。文化祭にブースを出

すなど。優秀な卒業生が多いので、利用しない手はない。

○30、40周年で何もしていないので何かやる予定ではあるが、全然集まることができていないため、決まっていない。

5 その他

- 次回の開催日の確認。次回は令和5年1月27日（金）